

『2020年度 指導部の目標と9人制の重点指導項目』

JVA国内事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 審判員は、競技規則を理解するだけでなく、正確に適用する。
- (2) 審判員は、ホイッスルやハンドシグナルを大切に、基本的な動きや位置取り、手続きを確実に行う。
- (3) 審判員は、向上心を持ち、日頃から信頼されるよう多くの経験を積む努力をする。

2 重点指導項目

【主 審】

(1) ハンドリング基準

試合におけるハンドリング基準の統一はもとより、大会を通したハンドリング基準の統一を確立させる。そのためには、各種講習会に積極的に参加しハンドリング基準の確認をする。また、大会に参加するときは実技クリニックを重く受け止め、大会で統一されたハンドリング基準になるよう努める。1プレー1プレーに目を残し確実に判定する。

(2) ネット際の判定

- ① オーバーネットの判定は、ブロッカーとボールの接点を確実に見て判定をする。オーバーネットの反則が起きる接点（ボール1個分を目安にアタック側）に視点を置き、反則が起きた瞬間に吹笛する。自コートでボールと接触した後にフォローの手が相手コートに出るプレーは反則ではない。また、複数のブロッカーの場合には、どの選手のどこの部分にボールが接触したかを確実に捉えて判定する。
- ② ブロックなのか、ブロックでないのかの判定を確実に行う。
- ③ ブロックした選手がブロック後のボールをネットに当てて続けて3回接触するプレーを正確に判定する。その場合、確信が持てないものは反則としない。
- ④ トスがネット付近に上がった時、アタック側、ブロック側のどちらが先に触れたのかを確実に判定すること。ボールの接触に時間差がある場合は、後に触れた方のチームが続けてプレーするときに、オーバータイムスの反則が起こっていないか的確に判定する。

(3) 不法な行為について

相手に向かって“ガッツポーズ”などで挑発・威嚇する行為など、チームメンバーによる不法な行為に対して、第27条「不法な行為」に則って罰則を適用する。

特にラリー終了時は、ネット際、チームベンチ、ウォームアップエリアを監視する。

(4) ラリー中の判定

副審とのコンビネーションが重要であり、ラリー中のワンタッチの確認及び主審から見えにくいプレーについては、思い込みで判定するのではなく、副審との協働で判定する。

(5) サービス許可の吹笛タイミング

ラリー終了から次のサービス許可の吹笛までの間が一定になるようにコントロールする。ボールデッドの間に必要な確認（中断の要求、他のコートからのボールの侵入、両チームの選手の状況、副審・記録員の状況など）を行い、ベストなタイミングでサービス許可の吹笛をする。また、デッドになったボールの行方も確認し、すぐに取りに行かない場合は吹笛で促す。

【副 審】

(1) 選手交代の手続き

① 選手交代の組み合わせの確認

選手交代およびセット間の選手交代は、記録員とともに交代できる組み合わせかどうかを確実に確認する。セット間の選手交代の組み合わせは、前のセットが終了した時点の状況を基準に、交代できる組み合わせであるかどうかを判断する。

② セット間の選手交代の確認

第2セット、第3セット開始時に、監督から次セットの先発選手の申告がない場合は、監督に確認する。確認の際は、記録用紙ではなくサービスオーダー票で確認する。

(2) タイムアウトの要求の確認

常に試合の流れを頭に入れ、ボールデッドになったとき、監督（監督がいない場合はゲームキャプテン）を確認し、タイムアウトの要求にタイムリーに対応する。ボールデッド後すぐに要求しないで少し時間を置いて、タイムアウトを要求するケースにも適切に対応する。

(3) 不法な行為について

チームベンチ、ウォームアップエリアにいるチームメンバーの不法な行為に対してコントロールし、不法な行為があれば主審に報告する。特にラリー終了時は、視野を広く持ち、ネット際からウォームアップエリアの状況を監視する。

(4) 記録用紙の確認

① 記載内容の確認

不当な要求、遅延、不法な行為、特記事項欄への記入などの記録が確実に行われているかを確認する。

② サービス順の誤りの確認

サービス順の誤りがあったときは、サービスオーダー票とともに記録用紙を確認し、誤りがあったときの手順を正しく理解し速やかに処置する。

③ セット開始時のサービスチームの確認

各セット開始時のサービスチームは、記録用紙で正確に確認する。

(5) ネット際の判定

① タッチネットの判定

第20条第3項「タッチネット」を理解し、正確に判定する。特にアタック後にネットの網目の部分に触れる反則が判定できるようにする。

② アンテナ付近の判定

ボールがアンテナに触れたのか、選手がアンテナに触れたのか、どちらのチームが反則になったのか正確に判定ができるようにする。

(6) 許容空間外側のボール通過の判定

許容空間外を通過するかどうかの判定は、取り戻しのプレーも頭に入れ、タイムリーに適切な位置取りを行い、正確な判定を行う。

【記録員】

(1) 選手交代の手続き

① 選手交代の組み合わせの確認

選手交代およびセット間の選手交代の組み合わせは、交代できる組み合わせかどうかを確実に確認する。セット間の選手交代については、前のセットが終了した時点の状況を基準に、交代できる組み合わせであるかどうかを判断する。

② 副審との協働

交代の組み合わせが正しいときは、必ず副審と目を合わせ、片方の手を挙げる。選手交代の記録を完了した後は、副審に両方の手を挙げて、記録が完了したことを報告する。複数の選手交代の場合は、副審との協働により1組ずつ正確に行う。

(2) サービス順の誤り

サービス順の誤りの反則がおきた場合、速やかに処置ができるよう、正しい手順を確実に把握する。

【線審】

(1) 担当するラインの判定を確実に行う。ワンタッチは、確実に見えた場合に限りフラッグシグナルを示す。

(2) ラインジャッジ・マニュアルを活用し、判定方法を確認し試合に臨む。